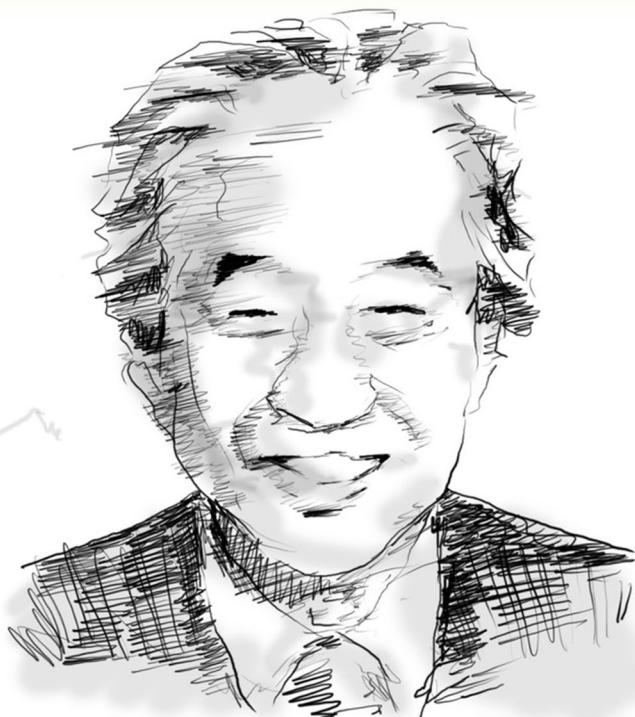


梅原猛生誕100年記念特別シンポジウム

「梅原日本学の可能性」

—縄文文化と怨靈を中心に—



要申込
参加無料
定員250名
(抽選による)

申込フォーム
はこちら

◆講演「梅原猛の縄文論－その可能性の中心」

中島 岳志(東京科学大学教授)

◆講演「梅原猛と鎮魂の系譜」

井上 章一(国際日本文化研究センター所長)

◆鼎談「新たな人文学の可能性にむけて」

中島 岳志、井上 章一、磯前 順一(国際日本文化研究センター教授)



令和8年3月14日(土) 13:30~16:00

ひと・まち交流館 京都 大会議室 (涉成園向かい)



主催:大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国際日本文化研究センター

梅原猛は、独自の「日本学」をうちたてた哲学者でした。国際日本文化研究センターの創始者、初代所長でもあります。著作は意表をつき、読書人にさわがれました。ですが、かえってその学問的な射程は、見えにくくなつたと思います。梅原の、たとえば怨霊論や縄文論は、何をめざしていたのか。京都にひそむ陰の文化をほりおこす作業がもつた意味。生誕100年をむかえた今、それらをあらためてふりかえります。未来への可能性も検討するつもりです。

梅原 猛(1925-2019)
1925年、仙台市生まれ。京都大学文学部哲学科卒。
立命館大学教授、京都市立芸術大学学長、国際日本文化研究センター初代所長など歴任。1999年、文化勲章受章。
著書に『隠された十字架 法隆寺論』(毎日出版文化賞)『水底の歌 柿本人麿論』(大佛次郎賞)『ヤマトタケル』(大谷竹次郎賞)『日本人の「あの世」観』『京都発見』『葬られた王朝 古代出雲の謎を解く』『人類哲学序説』『親鸞「四つの謎」を解く』など多数あり、40巻にわたる『梅原猛著作集』が刊行されている。

登壇者



中島 岳志

1975年、大阪生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。学術博士(地域研究)。2005年『中村屋のボース』で、大佛次郎論壇賞、アジア・太平洋賞大賞を受賞。北海道大学大学院准教授を経て、現在、東京科学大学(旧東京工業大学)リベラルアーツ研究教育院教授。著書に『ナショナリズムと宗教』『秋葉原事件』『リベラル保守』宣言』『血盟団事件』『岩波茂雄』『アジア主義』『親鸞と日本主義』『保守と立憲』『超国家主義』『自民党』『思いがけず利他』などがある。



井上 章一

1955年、京都府生まれ。国際日本文化研究センター所長。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。専門は建築史、文化史、風俗史。1986年『つくられた桂離宮神話』でサントリー学芸賞、99年『南蛮幻想—ユリシーズ伝説と安土城』で芸術選奨文部大臣賞受賞。『関西人の正体』『日本に古代はあったのか』『伊勢神宮—魅惑の日本建築』『京都ざらい』『ヤマトタケルの日本史—女になった英雄たち』など著書多数。



磯前 順一

1961年、茨城県水戸市生まれ。国際日本文化研究センター教授。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程中退。博士(文学)。専門は宗教学、批評理論。著書に『公共宗教論から謎めいた他者論へ』『石母田正』『生者のざわめき 震災転移論』『新・学問のすすめ 研究者失格!』『京都 祈りと差別の千二百年』などがある。

日時・場所

令和8年3月14日(土) 13:30~16:00
(開場 13:00)

ひと・まち交流館 京都 大会議室

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅塹町
83-1(河原町五条下る東側)

申込方法

参加ご希望の方は、以下の申込フォームより
お申し込みください。

申込フォーム:
<https://forms.office.com/r/xgsU9i04xp>



アクセス

◆バス

市バス4、7、205号系統「河原町正面」下車

◆電車

京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分

<https://hitomachi-kyoto.jp/access>

申込締切:
2月26日(木)正午

お問い合わせ
国際日本文化研究センター「梅原猛生誕100年記念特別シンポジウム」係
E-mail: umehara100@nichibun.ac.jp